

ICT教育の理論と方法 第10回

特別支援教育におけるICT活用②

ICT機器を効果的に活用した実践／

ICT機器を効果的に活用した校務の在り方とデータの活用

山梨大学教育学部 稲垣 俊介

※宿題の入力フォームは私のWebにあります。

※できるだけ前に座ってくださいね。

課題

「情報モラル」の授業のためのスライドをPowerPoint形式で作成してください。もしPowerPointをお持ちでない場合は、大学のPC室で作成をお願いします。スライドのノート部分には、そのスライドで話す内容を示してください。

作成するのは50分の授業ですが、授業内で紹介できるのは4分となります（申し訳ありませんが、発表準備を含めて4分以内に終わらせてください）。どのように紹介すれば良いのかをよく検討し、聴衆である学生や私（稲垣）にわかりやすく発表してください。

なお、紹介スライドを作るのではなく、あくまで授業スライドを作成し、そのスライドを発表時にも使用してください。

課題

情報モラルの授業で利用する素材はPowerPointに埋め込むようにしてください。

授業で配布するプリントなどはWord形式で追加提出できますが、プリントの配布は講義ではできませんので、聴衆に理解してもらえらる工夫が必要です。

できるだけ全員に発表してもらおうつもりです。

もし前半で発表する学生が少なければ、後半は希望者が増えるかもしれません。

しかし、授業時間の5分前には発表を終わりにします。

よって、できるだけ前半で発表するのが良いと思いますが、発表順は自由とします。

課題

- 提出はK-SMAPY II を通して行います。
- 提出期限は7月5日（金）です。
- 締め切り後や他の方法（メールなど）での提出は一切認めません。余裕をもって提出しましょう。
- 発表スライドの最初と最後に学生番号と氏名を記載してください
- 発表は7月8日（月）からスタートです。

前回の課題提出より

実習A

皆さん(稲垣を含む)の意見を聴いて、
さらに思うことがあれば自由に書いてみてください。

現時点でプログラミング経験がある人が半数を占めるというのに驚いた。これからそれが100になっていくと思うとこのようなICTの技能は必須条件だと感じた。

コロナ禍のような状況で、自分自身がオンライン授業をするとなったら少し不安を感じました。稲垣先生もお話してくださったように、YouTubrみたいに聞き手が聞きたくなるような授業をできるのか、準備できるのか少し不安を感じるが、子どもたちにオンラインを通して学力意欲を向上させれるような授業を行いたいと思いました。そして、答えの内容なようなものを考えることが思考力だと言われるが、それだけではないということのお話がとても印象的でした。

私はカウンセリングや教育などの心に関することはAIに任せ
ることはできないと思っていた。スライドにあった意見の通りに
思っていたので、とても共感することができた。プログラミング
の話聞いて、私は前回授業に参加できなかったが、プログ
ラミングにはこんな便利なところがあるのか!と感じ興味を
持ったため、少し活用してみたいと感じた。

「教師の仕事って、生徒を承認し、自分が存在しているのだと実感させることにあると思った」という意見を聞いて、AIにとってかわられるものが多い世の中で、教師になろうと思える理由になるなあと思いました。AIがいろんなことをできるようになる中で、私はAIにできることだとしても人間がやることに意味がある行為というのがたくさんあると思います。例えば生徒がいやすいと思える学校にすることや生徒に精神的に寄り添った環境にすることはAIができるようになったとしても人間がすることに意味があると思います。

実習Ⅰ

特別支援教育とはどういった教育でしょう。
あなたの考えを書いてください。

「特別支援教育」とは子どもたち一人一人の特性に応じた支援をしていくということだと思う。何らかの困難を持つ生徒の自立や社会参加のために指導や支援をする教育。(とっている他の授業で少しやったので...)

身体的な不自由や精神的な障害をもつ子どもに対する教育のこと。それぞれがもつ不自由さに対して通常の学校教育よりも細かな支援を与えられるため、適した学びを提供することができると考える。

特別支援教育とは、身体や精神に何らかの障害を持った子どもたちが、障害を持たない子どもたちとトラブルが起きたりしないように、また、障害を持つ子どもたちが教育を受ける際に困難に直面しないために、一般的な指導・教育とは別に作られたものである。

私の母は小学校の特別支援学級の教員を長年やっており、母からよく特別支援の話をしてもらいますが、そこから考えたこととしては、特別支援は普通の学級教育で学ぶことが難しい個性豊かな子供達や、障がいをもった子供たちにそれぞれの能力や資質をのびのびと育成する教育だと思いました。この時大切なことはできなくてもいいからやってみるであったり、やってみることで得意なことを見つけてみるということ伝えていくことではないかと思います。寄り添うというとあまりにも無責任な表現だと思いますが、個別的な教育の究極な形ではないかと思います。

実習2

どのようなアプリやデバイスが特別支援教育に使えそうですか？
あなたの知っているアプリや持っているデバイスを紹介してください。

アプリでは無いけれど、最近自分でも使ってるのが、キーボードの右下にあるマイクの部分を押すと、前で喋っている教授の声をひろって文字起こしをしてくれるという機能。メモを勝手にとってくれて見返すのに役立つ。ちなみに意外と精度が高い。聴覚に障害がある人にいいと思う。パソコンなどについてる読み上げ機能は視覚に障害がある人にいいと思う。

NHKラジオらじるらじる(語学学習に役立つ)、Google Classroom(うまく話せなくてもコミュニケーションを取れる)、YouTube(学校に通えなくても、動画を見て学んだり、教科書に留まらない学びができる)、文字おこしアプリ(身体的に不自由があっても文字を打てる)/パソコン・スマートフォン(オンライン学習)

リマインダー、どうしてもやるべきことを忘れてしまう、物事を覚えられないという人に役に立つと考える。

以前の介護等体験のガイダンスで、視線を感知するデバイスを用いて障がいを持った方の意志表示を助けるという話を聞いた。動くことと発音することが難しい方が、このデバイスを使い質問に答えていた。

実習3

この授業で学んだことを「深く」考えて書きましょう。
また、どのように自分の教科に取り入れていけばいいでしょうか？
その視点も取り入れて書いてくださいね。

通常の学級でともに学ぶ中でも、あらゆる子どもが理解できるユニバーサルデザインな授業が実現できれば、個々に対応しなければならない場面は減らすことができると思った。その上で、必要に応じて個別の配慮や指導をしていくという考え方で授業づくりに取り組むべきだ。

教職をとっている、また図書館司書過程をとっているのですまざまな授業で特別支援教育に関することに触れることが多く、その授業それぞれの視点で特別支援を学ぶと自分の考えも深くなっていく気がします。一方で自分の今までの人生で実際の人々、現場と繋がりを持つことが多くなかったために、頭でっかちになっているような感覚もあったりします。

特別支援教育において講義内でおっしゃられていたカレンダーアプリはとても良いなと思いました。身の周りにある物に対して多面的な視点をもつことで、特別支援教育に役立てることが出来るということが分かりました。

ICTと特別支援教育の相性は大変良いのではないか。ICTは個別に最適化された教育が得意だろう。それが最も発揮される場所の一つが特別支援教育と考えた。フォーマット、アプリ、デバイスがあればコスト、特に人件費が大幅に削減できるのではないかと思った。

受験の際の配慮について音声読み上げ機能があるものを使用することはどうだろうかと先生がおっしゃっていたように、診断書があり必要な配慮であるのに手続きが必要なのが難しいなと感じました。眼鏡やコンタクトのように当たり前のよう
に使用できるようになるには道のりが長いだろうと思いますが、早くそうなると良いなと感じました。

試験時間を1.5倍に伸ばしていることで公平に回答できているのか気になりました。その時間は誰が決めたものか、それである人たちが納得できているのかが大切だと感じました。一人ひとりのニーズに合わせた学習をデザインするのは、特別支援学校だけでなく通常の学校でも必要であると考えているので特別支援学校の先生はお手本になるのではないかと考えました。

自分が健常者で何も教育について疑問や不安感を抱いたことがなかったので、思っている以上に特別支援教育を必要としている人の気持ちって理解できていないのではないかなと思いました。今の私で理解できていないと感じるということは、特別支援教育を必要としている子どもたちと過ごす健常者である子どもたちはもっと理解できていない部分があるのではないかと思いました。どこの学校でも特別支援教育をすることが求められている中で、自分が特別支援教育をできるようにすることも大事だと思うし、大学の教職課程でその力を身に着けたいと思います。それに加えて、健常者である子どもたちに、特別支援を必要とする子供たちに対する理解をしてもらえる教育をする力も身に着けるべきだと感じました。入試で特別な配慮が必要な生徒について考えてみたのですが、東北大学の入試のように、勉強がその人が持っている力ではないと思うので、筆記試験において不利が生じるのであれば、それは平等になるような配慮をしてもよいと感じました。

「配慮された受験」があることを初めて知りました。支援をするということはどういうことか、深みがある問いであると感じました。ICTだからこそできる学びが特別支援にはあるが、とても複雑祖であると思いました。うまくICTを活用しながら特別支援教育をどのようにするのか、次回の授業での学びが楽しみです。

実習A

皆さん（稲垣を含む）の意見を聴いて、さらに
思うことがあれば自由に書いてみてください。

講義

特別支援教育におけるICT活用②

講義のカリキュラム

1. 特別支援教育とは
2. ICTを用いた特別支援教育
- 3. 特別支援教育に対する考え方**

3. 特別支援教育に対する考え方

私たち教員もICTに支えられている
授業実践／校務

あたりまえへのアクセスという考え方

発達障害・知的障害のある子どもから成人とその家族が、さまざまなソーシャルサポートやICTを用いながら、**すでにできていることはさらに高め、やりたいことはとことん支援付きで可能にする、そのための方途を具体的、実証的に探求しています。めざすのは「あたりまえへのアクセス」であり、その先にあるのはQOLの向上です。**



「あたりまえへのアクセス」



「支援者や周囲の人にとってのあたりまえのこと」「社会通念や常識」「生活年齢から期待される一般的なこと」



「当事者やその家族が思い描くあたりまえのこと」



Copyright © 2003-2020 Mizuuchi-Lab. All Rights Reserved.



出典:知的・発達障害児・者とその家族の想う「あたりまえへのアクセス」のために(島根大学・水内豊和)



出典:知的・発達障害児・者とその家族の想う「あたりまえへのアクセス」のために(島根大学・水内豊和)



出典:知的・発達障害児・者とその家族の想う「あたりまえへのアクセス」のために(島根大学・水内豊和)

実習Ⅰ

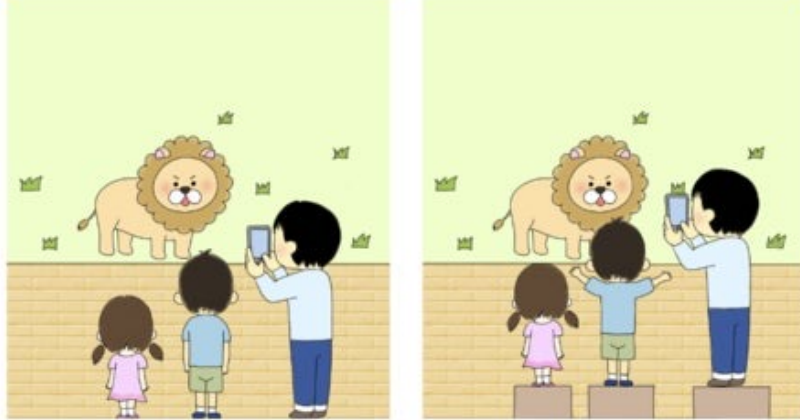
今の話、「あたりまえのアクセス」についてあなたはどのように感じましたか？

あなたの素直な感想や意見を聞かせてください。

まとめ 個別最適化された学び・協働的な学びを保障するために

水内豊和 (富山大学人間発達科学部)

本人の思う
「あたりまえへのアクセス」が
できない状況



無理解な社会

あまり意味のない
「公平」「平等」

本人の思う
「あたりまえへのアクセス」が
できる状況



合理的配慮

UD

基礎的環境整備
+ 合理的配慮

- ・ UD、基礎的環境整備、合理的配慮、個に応じた配慮・支援について理解する
- ・ 「障害」は「社会の中」にあるという視点を持つ
- ・ 支援の原則は、「内容」を下げるのではなく「方法」で支えること！

「あたりまえへのアクセス」とは
こちらのnoteをご覧ください



Copyright © 2003-2021 Mizuuchi-Lab.

出典: 知的・発達障害児・者とその家族の想う「あたりまえへのアクセス」のために (島根大学・水内豊和)

実習2

実習1の素直な感想を踏まえて、あなたはどのように特別支援教育が行われていくことが理想であると思いますか。また、その理想のために自分ができることは何だと考えますか。

まとめ

特別支援教育の実施にあたり、ICT技術が役に立つことは間違いなさそうです。

私の役割はICTが教育に導入されることへの理解を深めることであると思い、ここに立っています。

それがゆくゆくは「特別支援教育におけるICT活用」へとつながることであると考えています。あなたも、どのように特別支援教育とかかわっていきますか？

次回予告

- 次回の講義は、リフレクションの紹介のみで終わります。
- あとは、発表に関して個別に質問を受け付けることにする予定です。
- 発表に利用するスライドやPCを持ってくれば、接続のテストもできますよ。